

県立安芸津病院

1 評 価 表

2 具体的取組状況

1 評価表 (安芸津病院)

1 具体的取組①

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価 ()はH27	委員会 評価	委員会意見
I 医療機能の強化と患者サービスの向上						
①	医療提供体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機能の充実 ○政策医療(小児医療, 2次救急医療体制)の維持・運営 ○在宅療養支援の充実 ○健(検)診の受入強化 ○地域医療機関との連携 ○地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○広島大学からの医師派遣を含め, 小児医療, 2次救急医療など政策医療機能を維持 ○在宅復帰支援機能の強化 ○24時間訪問看護の継続, 在宅看取り体制の構築 ○安芸津町内のケアマネージャーとの連携強化, 「あきつ和」の立ち上げ ○健(検)診の受入強化 ○地域の関係団体への参画, 地域行事へ積極的に参加 ○ボランティアの受入開始 	○(○)	◎	<p>地域ケア会議・ネットワーク会議への参加やケアマネとの定期会合の立ち上げ, 地域の歯科医院との連携など, 地域包括ケアシステムの拠点病院のモデルを示すための様々な取り組みが行われているものと高く評価する。</p> <p>また, ロコモ, リハビリ, 在宅支援など, 安芸津病院の地域での特徴づけが始ったと感じる。</p> <p>一方で, 訪問看護の強化など, 県内の在宅医療の拠点病院となることを期待している。</p>
②	医療安全と質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○医療安全の確保 ○医療の質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療安全対策委員会, セーフティマネジメント部会の開催 ○TQMチームの継続活動 ○院内ディケアの運営 ○認知症ケアチームの活動開始 	○(○)	○	<p>転倒・転落予防対策をより充実させた結果, その発生件数および発生率が明らかに改善したこと, 口腔衛生への取組など評価できる。</p>
③	患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○患者満足度の向上 ○患者ニーズ等への的確な対応と患者支援の充実 ○広報の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○中央採血化による, 採血待ち時間の短縮 ○駐車場の再整備による, 駐車待ち時間の短縮 ○外来患者アンケートの開始 ○患者アンケートや意見箱に基づいた療養環境の整備 ○医療公開講座, 広報誌での情報発信 	○(○)	○	<p>患者意見を聞きながら, さまざまな視点からの患者サービス向上に努めており, 評価できる。</p> <p>一方で, 外来の待ち時間に対する不満に適切に対処する必要がある。</p>
II 人材育成・確保・派遣機能の強化						
④	医療人材の育成・確保・派遣	<ul style="list-style-type: none"> ○医師の育成・確保・派遣 ○看護師等コメディカルの育成・確保・派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○常勤医師・診療援助医師の診療体制を維持 ○初期臨床研修医の地域医療研修受入 ○整形外科医の派遣 ○看護師及び理学療法士等の実習受入 	○(○)	○	<p>広島病院の初期研修医を積極的に受入れ, 総合診療医としての知識と技術の修得を支援するとともに, 看護師や理学療法士等の実習も受入れており, 評価できる。</p> <p>専門領域の診療をどこまでサポートするのか, 地域の中で示してほしい。</p>
III 危機管理対応力と経営力の強化						
⑤	危機管理対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○災害・感染症対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療機関を対象とした感染症に関する研修会の開催 ○東広島市防災訓練等への参画 ○あきつほっと安心ネットワークとの連携 	○(○)	○	<p>地域の防災・消火訓練への参加やネットワーク防災チームとの連携, 災害支援ナースの配置など, 地域に根ざした防災活動を評価する。</p> <p>また, 週1回の感染症委員会ICTのラウンドを評価する。</p>
⑥	経営力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○情報処理技術の活用 ○弾力的な病床運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケア病床の機能の発揮 ○円滑な病床管理の推進 	○(○)	○	<p>DPCデータ分析を病床管理に反映させ, 病床稼働は顕著に改善している。</p> <p>また, 包括ベッドコントロール良好であり, 地域包括ケア病床の増床をもたらしたことは評価したい。</p>

1 評価表 (安芸津病院)

1 具体的取組②

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価 ()はH27	委員会 評価	委員会意見
III 危機管理対応力と経営力の強化						
⑦	増収対策	○医業収益の増加策	○新規入院患者数・病床稼働率の増加 ○新たな加算の取得(施設基準の届出)	○(△)	○	新たな診療報酬加算や新規入院患者数の増加などにより、医業収益は対前年度比約9千万円の増加となった。また、医業未収金(新規発生額)は、さまざまな対策を講じた結果、対前年度比約170万円減の約890万円になるなど、収益の大幅な改善を評価する。一方で、入院単価が減少したことはマイナスである。
⑧	費用合理化対策	○適正な材料・備品の購入 ○経費の見直し	○後発医薬品の利用拡大の推進 ○契約方法等の見直しによる、費用削減	△(△)	△	後発医薬品使用比率は、27年度の45%から28年度は87%に増加しており、評価できる。 一方で、人件費は対前年度比約13百万円減少したものの、経費が約23百万円増加し、医業費用は全体で約11百万円の増加となり、十分な成果が上がったとは言えず、まだまだやることがある。
IV 連携強化						
⑨	(2病院)協力状況	○医薬品の共同購入 ○医療機能維持・質の向上への協力	○医薬品の共同購入、品目共通化など2病院共同によるコスト縮減 ○広島病院からの診療応援の継続 ○TQMサークル活動の連携	○(○)	○	新人看護職員等職員交流会や看護部合同研修会の開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への受入など、評価できる。 また、医薬品の共同購入や価格交渉による費用削減の試みも評価できるが、その成果については言及されていない。

2 取組結果

V 決算、目標指標						
⑩	収支改善・目標指標の達成		○目標達成した取組項目は健(検)診件数のみで、収支目標は未達成であるが、経常収支の黒字まであと一歩のところまで迫った。 ○第6次広島県病院事業経営計画による更なる経営改善に取り組む	△(△)	△	地域でやれることは何かという視点での改革が始りつつあるように思える。 目標指標9項目のうち、達成できたものは2項目にとどまるものの、経常収支は赤字約百万円にまで縮減しており、評価できる。 一方で、さまざまな取り組みが政策事業に関連するものであると思われるが、それが収支に及ぼす影響を特定できないので、低い評価とせざるをえなかった。

総合評価	○	地域医療に関するさまざまな取り組みの実態は、県立病院のあり方に即しているという点を高く評価した。 また、限られた医療資源のもと、地域特性を反映した医療機能の発揮に努めており、評価できる。 一方で、地域を守る医療提供機関として努力されているが、高齢者が増えゆく地域でできるだけ長く暮らしていくことを支えるための拠点病院となるためには、まだまだ道半ばである。
------	---	---

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	◎

I 医療機能の強化と患者サービスの向上

① 医療提供体制の強化(その1)

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価																																				
<p>○医療機能の充実 ○政策医療(小児医療, 2次救急医療体制)の維持・運営</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重点指標</th> <th>H28</th> <th>目標比</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>387件</td> <td>+27件</td> <td>+37件</td> </tr> </tbody> </table> <p>救急患者全体の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車</td> <td>367</td> <td>359</td> <td>▲8</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>216</td> <td>202</td> <td>▲14</td> </tr> <tr> <td>救急車以外</td> <td>2906</td> <td>2971</td> <td>+65</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>216</td> <td>296</td> <td>+80</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3273</td> <td>3330</td> <td>+57</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>432</td> <td>498</td> <td>+66</td> </tr> </tbody> </table> <p> 取組 ・整形外科の機能充実のため, メディカルクラークの継続配置 ・大崎上島町小児健診事業への協力 ・竹原市の2病院とともに, 安芸津・竹原・大崎上島地域の二次救急輪番体制を維持 </p> <p> 成果 ・整形外科手術件数: 254件(+34件) ・整形外科延外来患者数: 22,211人(+218人) ・リハビリテーション単位数: 15,364単位(+824単位) ※1単位: 20分 ・大崎上島町小児健診への医師派遣回数: 4回(±0回) ・救急搬送受入件数: 359件(▲8件) ・救急からの入院件数: 498件(+66件) </p> <p> 参考 ・小児科延外来患者数: 2,542人(▲917人)(平成28年8月に常勤医師1名が退職) </p>	重点指標	H28	目標比	前年比	手術件数	387件	+27件	+37件	区分	H27	H28	増減	救急車	367	359	▲8	うち入院	216	202	▲14	救急車以外	2906	2971	+65	うち入院	216	296	+80	合計	3273	3330	+57	うち入院	432	498	+66	<p> 自己評価理由 ・手術件数は, 対目標・前年ともに上回ることができ, 特に整形外科の手術件数が増加した。また, リハビリテーション単位数も前年を上回ることができた。 </p> <p> ・救急搬送受入件数は前年並みであったが, 全体の救急患者数や救急からの入院件数は前年を上回るなど, 救急医療体制の維持に貢献した。 </p> <p> 課題 ・小児科の常勤医師が退職した後, 外来患者数が減少している。 </p> <p> ・整形外科の患者数が増加しており, 医師の負担軽減を図る必要がある。 </p>
重点指標	H28	目標比	前年比																																			
手術件数	387件	+27件	+37件																																			
区分	H27	H28	増減																																			
救急車	367	359	▲8																																			
うち入院	216	202	▲14																																			
救急車以外	2906	2971	+65																																			
うち入院	216	296	+80																																			
合計	3273	3330	+57																																			
うち入院	432	498	+66																																			
<p>○在宅療養支援の充実</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重点指標</th> <th>H28</th> <th>目標比</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護 件数</td> <td>1,416件</td> <td>▲264件</td> <td>+8件</td> </tr> <tr> <td>〃 枠数</td> <td>1,925枠</td> <td>—</td> <td>+167枠</td> </tr> <tr> <td>対象者(実人員)</td> <td>23.3人/月</td> <td>—</td> <td>▲2.6人/月</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1枠は30分(看護等を1時間以上要する患者が増加している。)</p> <p> 取組 ・円滑な在宅療養に向け, 24時間訪問看護・在宅看取り体制の構築 ・退院後72時間以内の電話訪問の実施による在宅療養生活の支援 </p> <p> 成果 ・24時間訪問看護利用者数: 8人(+6人) ・訪問診療件数: 89件(+7件) ・訪問リハビリ: 292単位(+176単位) ・退院後の電話訪問回数: 828名(+24名) ※原則, 退院患者全員に実施 ・在宅復帰率(地域包括ケア病床): 84.5%(▲2.1%) </p>	重点指標	H28	目標比	前年比	訪問看護 件数	1,416件	▲264件	+8件	〃 枠数	1,925枠	—	+167枠	対象者(実人員)	23.3人/月	—	▲2.6人/月	<p> ・訪問看護については, 地域の介護サービスとの連携, 役割分担を行う必要がある。 </p>																				
重点指標	H28	目標比	前年比																																			
訪問看護 件数	1,416件	▲264件	+8件																																			
〃 枠数	1,925枠	—	+167枠																																			
対象者(実人員)	23.3人/月	—	▲2.6人/月																																			

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

I 医療機能の強化と患者サービスの向上

① 医療提供体制の強化(その2)

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較				取組に対する自己評価									
○健(検)診の受入強化	<table border="1" data-bbox="446 315 1041 455"> <thead> <tr> <th>重点指標</th> <th>H28</th> <th>目標比</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健(検)診件数</td> <td>2,494件</td> <td>+1,036件</td> <td>+153件</td> </tr> <tr> <td>内視鏡検査件数</td> <td>1,814件</td> <td>▲622件</td> <td>+31件</td> </tr> </tbody> </table> <p> 《取組》 ・地域の団体、企業等に健診受診をPRL、新規契約を促進 《成果》 ・健診契約企業数:103社(+25社) ・上部・下部内視鏡検査の同一日実施件数:15件(+5件) ・内視鏡治療件数:83件(+11件) </p>	重点指標	H28	目標比	前年比	健(検)診件数	2,494件	+1,036件	+153件	内視鏡検査件数	1,814件	▲622件	+31件	<p> ■自己評価理由 ・健(検)診件数は対目標・対前年ともに上回る事ができた。 ・安芸津町内のケアマネとの定期会合の開催や地域の歯科医院と連携したミールラウンドの実施など、地域の関係者との連携強化に取り組んだ。 </p> <p> ■課題 ・介護支援連携指導料加算の件数が減っており、平成29年度から新規に配置した社会福祉士を中心に積極的に取り組む必要がある。 </p>
重点指標	H28	目標比	前年比											
健(検)診件数	2,494件	+1,036件	+153件											
内視鏡検査件数	1,814件	▲622件	+31件											
○地域医療機関との連携 ○地域との連携	<table border="1" data-bbox="446 708 1182 801"> <thead> <tr> <th>重点指標</th> <th>H28</th> <th>目標比</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援連携指導料加算件数</td> <td>75件</td> <td>▲45件</td> <td>▲20件</td> </tr> </tbody> </table> <p> 《取組》 ・安芸津町内のケアマネジャーとの定期会合「あきつのと」を立ち上げ〔H28.7～〕 ※介護事業所間の連携、医療・介護の連携、在宅復帰支援機能を強化〔毎月1回開催〕 ・地域の歯科医院との連携によるミールラウンドの実施〔H28.12～〕 ※入院患者の摂食・嚥下機能の回復や誤嚥性肺炎の予防などを目的に実施 ・ボランティアの受入開始〔H28.4～〕 ・あきつほっと安心ネットワークへの参画継続〔座長:安芸津病院事務長〕 ・常設型サロン「ひだまり」定期訪問による健康相談会の定例開催〔毎週水曜日〕 ・地域と一体となった病院づくり(院内クリスマスコンサート、七夕コンサートの継続開催) 《成果》 ・ケアマネ集いの会の開催回数:7回 ・歯科連携ミールラウンド:3回 ・医療機関の訪問回数:延26回(±0回) ・病診連携カンファレンスの開催回数:2回(±0回) ※対象者:地区医師会員 ・ふれあい看護体験(高校生)の受入人数:8名(▲1名) </p>	重点指標	H28	目標比	前年比	介護支援連携指導料加算件数	75件	▲45件	▲20件	 <p> 全国自治体病院協議会雑誌への院長寄稿「地域に密着した病院を目指して」 </p>				
重点指標	H28	目標比	前年比											
介護支援連携指導料加算件数	75件	▲45件	▲20件											

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	○

I 医療機能の強化と患者サービスの向上

② 医療安全と質の向上

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価														
○医療安全の確保	<p>《取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内マニュアル[薬剤管理マニュアル, 抗生物質適正使用マニュアル等]の改訂 「入院患者の転倒予防」をテーマとしたTQM活動の継続実施 医療安全ラウンド[5S活動]の継続実施 <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療安全・感染対策研修会の開催回数: 12回(±0回) セーフティマネジメント部会の開催回数: 12回(±0回) 広島病院と連携したME機器研修の開催: 2回(±0回) 転倒・転落発生率(レベル2以上): 0.033%(△0.007%) 入院延患者数 H27:30,070人 ⇒ H28:33,271人(+10.6%) 転倒・転落件数 H27:12件 ⇒ H28:11件(△1件) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯科医師と連携した院内ミールラウンドと研修会の実施した。 認知症患者への支援を目的に、新たに認知症ケアチームの活動を開始した。 多職種連携・チーム医療に取り組んでいる。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、認知症認定看護師は1名しかいない。認知症患者が増加傾向にある中で、複数人の確保が必要である。 														
○医療の質の向上	<p>《取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎罹患率の低下を目的に、歯科医院と連携した院内ミールラウンドの実施や研修会の開催 離床の少ない患者のADL向上, 在宅復帰支援等を目的とした「院内デイケア」の継続実施 多職種で構成する委員会・チームが院内で横断的に活動し、チーム医療を推進 ※H28から、認知症患者への支援を目的に、新たに認知症ケアチームが活動を開始 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">委員会・チーム</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 褥瘡対策委員会</td> <td>褥瘡ラウンド, 褥瘡予防, 発生時の支援, マットレスの管理など</td> </tr> <tr> <td>2 NST委員会</td> <td>歯科連携によるミールラウンド, NSTラウンド, 患者の栄養状態の改善など</td> </tr> <tr> <td>3 糖尿病教室運営委員会</td> <td>糖尿病教育入院, 外来糖尿病教室, フットケア外来, 糖尿病ミニ講座など</td> </tr> <tr> <td>4 感染症対策チーム</td> <td>院内感染の防止, 地域での研修会の開催, 施設への訪問指導・相談対応など</td> </tr> <tr> <td>5 緩和ケアチーム</td> <td>緩和ケア外来, 疼痛管理, 精神的な支援など</td> </tr> <tr> <td>6 認知症ケアチーム</td> <td>認知症ケアラウンド, カンファレンスの開催など</td> </tr> </tbody> </table> <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内デイケア参加者: 延べ230名 	委員会・チーム	取組内容	1 褥瘡対策委員会	褥瘡ラウンド, 褥瘡予防, 発生時の支援, マットレスの管理など	2 NST委員会	歯科連携によるミールラウンド, NSTラウンド, 患者の栄養状態の改善など	3 糖尿病教室運営委員会	糖尿病教育入院, 外来糖尿病教室, フットケア外来, 糖尿病ミニ講座など	4 感染症対策チーム	院内感染の防止, 地域での研修会の開催, 施設への訪問指導・相談対応など	5 緩和ケアチーム	緩和ケア外来, 疼痛管理, 精神的な支援など	6 認知症ケアチーム	認知症ケアラウンド, カンファレンスの開催など	
委員会・チーム	取組内容															
1 褥瘡対策委員会	褥瘡ラウンド, 褥瘡予防, 発生時の支援, マットレスの管理など															
2 NST委員会	歯科連携によるミールラウンド, NSTラウンド, 患者の栄養状態の改善など															
3 糖尿病教室運営委員会	糖尿病教育入院, 外来糖尿病教室, フットケア外来, 糖尿病ミニ講座など															
4 感染症対策チーム	院内感染の防止, 地域での研修会の開催, 施設への訪問指導・相談対応など															
5 緩和ケアチーム	緩和ケア外来, 疼痛管理, 精神的な支援など															
6 認知症ケアチーム	認知症ケアラウンド, カンファレンスの開催など															

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	○

I 医療機能の強化と患者サービスの向上

③ 患者サービスの向上

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価
<p>○患者満足度の向上</p> <p>○患者ニーズ等への的確な対応と患者支援の充実</p>	<p>＜取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採血待ち時間の短縮などに向けて、中央採血化を実施〔H29.2～〕 ・駐車待ち時間の短縮に向けて、外来駐車場を再整備し、新たに10台分の駐車区画を確保 ・外科・整形外科の手術曜日の固定化に伴う、午前手術の実施・午後外来の拡充 ・入院患者アンケートに加え、H28から外来患者アンケートを新たに実施 〔入院〕全入院患者を対象に常時アンケートを実施(回収率78.1%) 〔外来〕年に1回実施(配布:991人,回収率:90.0%) ・患者意見箱を各病棟やロビーに常設し、意見書への対応状況を公表 ・接遇研修の実施〔年1回〕 ・療養環境の改善に向けて、4階病棟全てのトイレにオートソープを設置・シャワートイレへの取換 ・糖尿病ミニ講座の開催:6回(±0回) ・ペースメーカー友の会・ミニ講座の開催:1回(±0回) <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車待ち時間がなくなった。 ・手術日の固定により、手術を予定どおりの時間に開始できるようになった。またそれに伴い、手術の終了時間が遅くなることなくなくなった。 ・外来患者アンケートの意見(診察室内の会話が聞こえるプライバシー問題)に対し、中待合を廃止 ・医療相談件数:2,498件(+402件) <p>＜参考＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者アンケートの満足度:96.9% ・外来患者アンケートの待ち時間の満足度:76.4% 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央採血化による採血待ち時間の短縮、外来駐車場の再整備による駐車待ち時間の短縮など、患者利便性の向上に取り組んだ。 ・新たに実施した外来患者アンケートの意見に対して、中待合の廃止などの患者ニーズに対応した。 ・地域サロン等への出前講座の開催回数を増やすなど、地域への医療情報の発信や健康づくりに積極的に取り組んだ。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者アンケートの「待ち時間」は、他の項目と比較して満足度が低い。 ・安芸津病院の強み(内科・外科が連携した消化器疾患治療や内科の特殊治療(GCAP・レミケド))が十分に広報できていない。
<p>○広報の充実</p>	<p>＜取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌等による医療情報の発信・提供 <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域サロン等への出前講座の開催回数:49回(+18回) ・院外広報誌4回(±0回)、安芸津社協だより6回(±0回)、大崎上島町広報誌12回(±0回) ・地域医療連携だより:5回(▲1回) ・医療公開講座の開催:3回(±0回) 〔7/23大崎上島:181名参加,12/10安芸津地区:118名参加,3/4安芸津地区:94名参加〕 	

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	○

II 人材育成・確保・派遣機能の強化

④ 医療人材の育成・確保・派遣

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価
○医師の育成・確保・派遣	<p>◀取組▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島病院臨床研修医の地域研修受入 総合診療医としての知識の修得を目的とした研修(期間:1ヶ月) 地域医療の体験:安芸津病院医師の専門性を活かした研修, 訪問診療・訪問看護への同行など <p>◀成果▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医 地域医療研修の受入人数:9人(+2人) ・整形外科医による大崎上島町への診療支援の継続:3回(+1回) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医の地域研修の受入や整形外科医の派遣に取り組んだ。 ・診療情報管理士や専門性の高い看護師の院内育成とともに, 看護学生等に係る実習の受入等, 医療人材の育成に取り組んでいる。
○看護師等コメディカルの育成 確保・派遣	<p>◀取組▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報管理士の育成・確保 ・地域ニーズに対応した独自の認定制度の創設 ・看護師等コメディカルの養成に係る実習の受入 <p>◀成果▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報管理士の院内職員からの育成[2名], 採用[1名] ・院内認定制度:退院支援ナース9名, フットケアナース4名 ・BLS(※)研修の実施回数:2回 <p>[実習受入人数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師:老年実習45名(延べ472日), 統合実習:19名(延べ133日) ・理学療法士:2名(延べ66日) ・管理栄養士:2名(延べ20日) ・救急救命士:3名 	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科など, 医師退職後の後任医師の確保が困難である。 ・地域の医療ニーズの高い整形外科医の更なる確保が困難である。 ・ME等の専門職が配置できていない。

(※)BLS:Basic Life Support(一次救命処置)

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	○

Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

⑤ 危機管理対応力の強化

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価
○災害・感染症対策の強化	<p>◀取組▶</p> <p>(災害対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛消防訓練の実施 ・あきつほっと安心ネットワーク防災チームとの連携(地域と一体となり、防災への検討) ・東広島市総合防災訓練に継続参加 ・東広島市初期消火競技大会に継続参加 ・活動報告「災害支援ナースの役割」を作成し、院内報告会で職員との共有・学習を実施することにより災害を想定した活動マニュアルの整備 ・看護協会主催の災害時マニュアル訓練に参加 <p>(感染症対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策委員会とICT部会が毎週水曜日に院内をラウンド(感染対策の徹底) ・医療職の全職員に対して、麻疹・水痘・風疹・ムンプスの抗体検査を実施 ・感染症対策チームを中心とした、地域での研修会の開催、施設への訪問指導・相談対応 <p>◀成果▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症に関する地域医療機関対象研修会の開催回数:6回(▲2回) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策については、職員にマニュアルの順守を徹底するとともに、入院患者への面会制限等を適切に実施し、インフルエンザやノロウイルスのアウトブレイクを回避した。 ・院内の防災・感染対策はもとより、地域の防災・感染症対策に積極的に取り組んでいる。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧棟の耐震化計画を策定する必要がある。



あきつほっと安心ネットワーク防災チーム研修会

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	○

Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

⑥ 経営力の強化

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価
<p>○情報処理技術の活用</p> <p>○弾力的な病床運営</p>	<p>＜取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 様式1作成システムの登録データによる分析の実施 ※診断群分類別の患者数, 転帰の状況等を分析 EFファイル(レセプトデータ)から入院日数, 治療, リハビリの状況等を抽出し, 複数部署・職種による病床管理ミーティング[毎週月曜日]において, 病棟全体のベッドコントロール, 円滑な入退院に活用 <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率: 91.2% (+9.0%) うち一般病床稼働率: 88.1% (+9.9%) うち地域包括ケア病床稼働率: 102.9% (+5.9%) 平均在院日数(一般病床): 20.3日 (+1.0日) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週の病床管理ミーティングの実施など, 円滑な病床管理の推進に取り組んだことで, 病床稼働率が前年を上回ることができた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期入院を要する患者の増加により, 一般病床の平均在院日数が長くなっており, 長期入院患者へ対応するための病床構成の見直しなどが必要である。 <p>⇒ H29.4～ 地域包括ケア病床8床増床</p>

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	△	○
委員評価	△	○

Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

⑦ 増収対策

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価																																								
○ 医業収益の増加策	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重点指標</th> <th>H28</th> <th>目標比</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規入院患者数</td> <td>1,233人</td> <td>▲207人</td> <td>+111人</td> </tr> </tbody> </table> <p> 《取組》 ・新たな加算の取得(施設基準の届出) ①後発医薬品使用体制加算 ※使用数量割合の増加に伴う段階的な届出 H28.7:同加算3, H28.8:同加算2, H28.9~:同加算1 ②認知症ケア加算2(H28.7~) ・地域の団体、企業等に健診受診をPRLし、新規契約を促進 </p> <p> 《成果》 ・入院収益:10.8億円(+0.9億円) ・外来収益:5.1億円(▲0.1億円) ・健診収益:2,362万円(+219万円) </p> <p> 《参考》 (入院収益に関するデータ) </p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H28-H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①入院収益</td> <td>966,467 千円</td> <td>1,058,642 千円</td> <td>92,175 千円</td> </tr> <tr> <td>②入院単価</td> <td>32,137 円</td> <td>31,819 円</td> <td>▲ 318 円</td> </tr> <tr> <td>③病床稼働率</td> <td>82.2%</td> <td>91.2%</td> <td>9.0%</td> </tr> <tr> <td>④新規入院患者数</td> <td>1,122 人</td> <td>1,233 人</td> <td>111 人</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>353 件</td> <td>387 件</td> <td>34 件</td> </tr> <tr> <td>救急からの入院件数</td> <td>432 件</td> <td>498 件</td> <td>66 件</td> </tr> <tr> <td>⑤平均在院日数(一般病床)</td> <td>19.3 日</td> <td>20.3 日</td> <td>1.0 日</td> </tr> </tbody> </table>	重点指標	H28	目標比	前年比	新規入院患者数	1,233人	▲207人	+111人	区分	H27	H28	H28-H27	①入院収益	966,467 千円	1,058,642 千円	92,175 千円	②入院単価	32,137 円	31,819 円	▲ 318 円	③病床稼働率	82.2%	91.2%	9.0%	④新規入院患者数	1,122 人	1,233 人	111 人	手術件数	353 件	387 件	34 件	救急からの入院件数	432 件	498 件	66 件	⑤平均在院日数(一般病床)	19.3 日	20.3 日	1.0 日	<p> ■自己評価理由 ・救急からの入院件数の増加により、新規入院患者数は前年を上回ることができた。また、新たな加算の取得に取り組むなど、入院収益を増加させることができた。 </p> <p> ■課題 ・入院患者数の増加に伴い、必要看護師数の基準値が上昇したことで、急性期看護補助体制加算は50:1から75:1に下がり、看護職員配置加算を算定することが出来なくなっている。加算の再取得に向けた職員配置の適正化が必要である。 </p>
重点指標	H28	目標比	前年比																																							
新規入院患者数	1,233人	▲207人	+111人																																							
区分	H27	H28	H28-H27																																							
①入院収益	966,467 千円	1,058,642 千円	92,175 千円																																							
②入院単価	32,137 円	31,819 円	▲ 318 円																																							
③病床稼働率	82.2%	91.2%	9.0%																																							
④新規入院患者数	1,122 人	1,233 人	111 人																																							
手術件数	353 件	387 件	34 件																																							
救急からの入院件数	432 件	498 件	66 件																																							
⑤平均在院日数(一般病床)	19.3 日	20.3 日	1.0 日																																							
○ 未収金対策	<p> 《取組》 ・時間外受診患者に支払いを約する書面を提出してもらい、未収金発生の防止に努めている。 ・督促状の送付や未払者来院の際の面談実施など、未収金の早期回収に努めている。 ・司法書士法人への回収業務委託 </p> <p> 《成果》 ・医業未収金 新規発生額:8,888千円(▲1,669千円) ・医療未収金 現年度未収額(2月診療分まで):95万円(▲136万円) </p>																																									

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	△	△
委員評価	△	△

Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

⑧ 費用合理化対策

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価
○適正な材料・備品の購入	<p>◀取組▶</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者負担の軽減を基本に、後発品利用を拡大した 持参薬管理システム, 移動式X線撮影装置〔診療機能の充実〕 全自動散薬分包機〔医療安全の向上〕 自動採血管準備装置, 診察待合呼出装置〔業務効率の改善〕 ファイバースコープ, 業務用空調機〔必要な機器の計画的更新〕 <p>◀成果▶</p> <ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品使用数量割合: 86.5% (+44.6%) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品の利用を拡大した。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約方法等の見直しなどにより, 費用削減に取り組んではいるが, 十分な成果はあがっていない。 <p>・広島病院をはじめとした他院の取組みを参考にして積極的に経費削減に取り組む必要がある。</p>
○経費の見直し	<p>◀取組▶</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師白衣洗濯業務において, 広く入札参加を呼び掛けることにより, 入札参加者が前回の2者から3者になり, 競争性の確保 保守契約の対象範囲を見直し, 使用頻度が低くなった内視鏡1台をスポット対応に変更 清掃業務委託において, 管理部門の清掃回数を減らすなどして, ほぼ同額の契約額(単年度当たり)で新たにオペ室を清掃箇所として追加することができた。 単年度当たりの契約額 H27: 2,025万円⇒H28: 2,029万円 <p>◀成果▶</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師白衣洗濯業務の経費削減額: 約40万円 保守契約の見直しによる経費削減額: 約23万円 	

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	○	○
委員評価	○	○

IV 連携強化

⑨ 2病院協力状況

取組項目(計画)	H28の主な取組 ():対前年比較	取組に対する自己評価
○医薬品の共同購入	<p>◀取組▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の共同購入, 品目共通化への継続取組 ・医薬品については, 広島病院と共同して購入契約及び価格交渉を実施(品目の約80%) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の共同購入や広島病院からの医師派遣・ME派遣など, 2病院間の協力を継続している。
○医療機能維持・質の向上への協力	<p>◀取組▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の連携 新人看護職員等職員交流会への参加(6./29)(広島病院131人, 安芸津病院2人) 看護部合同研修会の開催 ・集中ケア認定看護師2名, 広島病院より3回シリーズでの研修の実施 フィジカルアセスメント(循環)～酸素療法と人工呼吸器～ ・看護記録研修の実施(広島病院看護師1名2回) ・都市型の高度急性期病院である広島病院から, 看護師やコメディカルの転入の受入により, 地域における高齢者医療や在宅医療などを実践する機会を提供 <p>(広島病院からの派遣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の派遣 循環器内科(週2回), 呼吸器内科(月1回) ・臨床工学技士の派遣 医療機器の定期保守点検の実施(2回×6日間)及び各回ごとの研修会の実施 	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸津病院から広島病院への連携の取組を検討する必要がある。

2 具体的取組状況 (安芸津病院)

	H27	H28
自己評価	△	△
委員評価	△	△

V 決算・目標指標

⑩ 収支改善・目標指標の達成

取組項目(計画)	数値目標	取組結果(H28)	達成状況	課題・今後の取組
1.新規入院患者	120人/月 (1,440人/年)	102.8人/月 (1,233人/年)	未達成	<p>○課題・特記事項 健(検)診件数は目標を達成できたものの、患者数等については目標を達成できていない。 収支の改善は進んだものの、経常収支の黒字達成には僅かに及ばなかった。</p> <p>○今後の取組 引き続き、近隣の急性期病院等と連携するなどして患者数を確保するとともに、経常収支の黒字化などの目標達成に向けて、効率的な診療体制や委託内容・業者の選定基準の見直しなどの改善に取り組む。</p>
2. 紹介率	20.0%	16.3%	未達成	
3. 手術件数	30件/月 (360件/月)	32.3件/月 (387件/年)	☆ 達成	
4. 内視鏡検査件数	203件/月 (2,436件/月)	151.2件/月 (1,814件/年)	未達成	
5. 介護支援連携指導料加算件数	10件/月 (120件/年)	6.3件/月 (75件/年)	未達成	
6. 訪問看護件数	140件/月 (1,680件/年)	120.3件/月 (1,416件/年)	未達成	
7. 健(検)診件数	6件/日 (1,458件/年)	10.3件/日 (2,494/年)	☆ 達成	
8. 地域開放型研修会開催回数	15回/年	8回/年	未達成	
9. 経営に関する指標	経常収支の黒字	▲1,200千円	未達成	